

未来はどうなるか誰も知らない

あと三十年、いや十年もたてば
きっと僕は、もうその人と会った時の事も
その人の事はみな、忘れてしまっているかもしれない。

そんなことが起きると年寄りと言う。
「初恋なんか、もう忘れた。」

僕はいやだ。

たとえ未来の僕は、今の僕でないけれど
今の僕を、未来の僕に、僕は忘れてほしくない。
そんな僕を、未来の僕に、忘れてはほしくない。

今いる僕は、未来の僕のために存在する。

その為に、この日記を僕は書く。

この日記は、その時になり、未来の僕が読む時、
「ああ、あんな時も あったのだなあ。」と、
僕に、きっと思わせることを、信じる。

これから、どこかで、また
その人に会えるかも知れない。

しかし、その時、僕は、もう忘れているだろうか。

自分の女性の理想像に、あてはまる、

その人の、あの時の姿を

未来の僕は、忘れているだろうか。

その人と、目を合わせても

知らぬ顔で、すぐ目を、そらしてしまうだろうか。